

比翼の束 第六十回

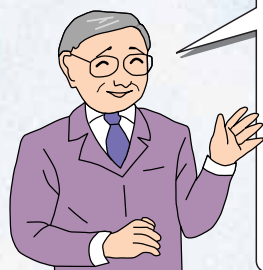
子育て環境日本一をめざす

今や日本全体が人口減少の時代に突入しています。

この矢板市においても、平成10年頃の約37,000人をピークに緩やかな減少傾向をたどり、一方で全人口に占める高齢者の割合が年々増加し、まさに少子高齢社会となっています。

とくに、生産年齢人口が減少し将来的なまちづくりを考えていくうえでも、若者、子育て世代を中心とした人口誘導をいかに進めていくかが大きな課題となっています。

私（市長）の思いや願いなどを市民の皆さんにお伝えします。



私は、市民の皆さんとの約束の一つに、「子育て環境日本一のまち」をめざすことをかけました。

なぜ子育てに力を入れるのか、そして高齢者はいいのかと問われることがあります。

少子化対策、高齢者対策は本来国全体で取りくむべき課題ではありますが、人口減少の局面を迎え、さまざまな問題が生じているなかで、末端の自治体としての対応が不可欠となっています。少子化対策というのは、実は最大かつ抜本的な高齢化対策なのであります。これからの高齢世代をしっかりと支えていけるだけの若者世代を確保すること、これを念頭におかなければ、まちの活性化など論外ですし、矢板市の高齢者福祉は遠からず限界を迎えてしまいます。

だからこそ、矢板市で高齢者が安心して暮らせるために、そして矢板市がこれからさき持続的に発展できるようにするために、若者、子育て世代を中心とした人口誘導を進めていかなければなりません。

矢板市では、昨年10月から人口誘導策の一つとして、市内に住居を求める方に最高50万円の助成と、さらに子どもがいる場合には加算補助するなどの定住促進事業を実施しています。

また、矢板市では現在、子育て支援のために約17億円ほどの予算を計上し、妊婦の健康診査、子ども予防接種、子ども医療費助成、みらいっ子誕生祝など、子育て支援給付事業、子育て各種相談事業、ファミリーサポートセンター事業、児童館学童保育館の運営、民間保育園幼稚園への補助など、さまざまな子育て支援に取り組んでいます。子育て支援は、出産前後・乳幼児期・学齢期など年齢ごとに異なるニーズが

あり、それぞれの時期における経済的負担の軽減も求められています。保健福祉、医療、教育など幅広いわけであります。生活上の利便性も問われますし、働く場所の確保も必要となります。まいります。

したがって、子育て環境の充実に向けて特色ある施策を展開し、情報発信することで、他市町との比較で矢板市が選ばれ、矢板市で子どもを産み、矢板市で子育てをする。矢板市にきて子育てをする、そうしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

すぐにできること、じっくり取りくまなければできないこともあります。

また、これから先しばらくの間、財政は逆風です。でもその中にあっても、子どもを産み育てるなら矢板市と思っていただけのような「子育て環境日本一」をめざしたまちづくりを進めてまいります。

※タイトルの「比翼の束」とは、市民と行政を翼に例え、ふたつを束ねてまい進するさまをイメージしています。